

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらんの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらんの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和5年9月19日	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jigvosyoCd=2172800290-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「尊厳を守ること」を念頭に置き、毎日のケアに取り組んでいます。コロナの影響で、以前のような生活はできていませんが、外に出る機会や外部の方が来て下さる機会は少しずつ増えてきています。利用者様が季節を感じたり楽しみごとが増えるように、様々なイベント(施設内)を企画し楽しんでいただいています。なるべく以前のように食事作りをお願いしたり、ちょっとした空き時間に気分転換もかねて散歩にお連れするなど、できる限りの介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念にある「その人らしさ」や「尊厳を守る」というキーワードを大切に支援にあたっている。利用時には、ADL等の確認だけでなく、生活歴や趣味嗜好についても聞き取りを行っている。さらに、センター方式の書式を用い、家族に書き込んでもらう事で、ホームの聞き取りでは得られない細かなこだわりや生活リズム等についてのその人らしさが把握でき、ホームでの利用者の生活を支援していく上で活かしている。また、食事の準備や後片付けに意欲を示す利用者には、食材の下ごしらえや食器拭き等の片付けを依頼し、その様子を見守り、さらに、庭仕事に意欲を見せる利用者には、暑さ対策をとりつつ、草むしりを行ってもらい、無理しないよう声をかけながら、利用者の気持ちを大切に支援に心がけている。コロナ感染症の5類への移行に合わせ、春先には花見に出かけたり、陽気の良い時には、時間を作り散歩に出る等、利用者を中心とした外出支援も提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードの近くや休憩室など職員の目に入りやすい所に理念が掲示しており、意識付けができています。	開設当初から「すべての人の尊厳を守る」「最期までその人らしく」を理念に掲げ、掲示するとともに、会議の際等に、適宜、話題にしている。また、日誌や申し送りノートに記載していく事で、いつも意識して利用者に関わる事ができている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで、コロナ禍で地域との交流ができない状況だったが、こども園や学校の行事、地域の祭り(角付け)などに参加したり、ボランティアの方をお招きすることができている。	コロナ5類移行に合わせて、近隣のこども園や託児所との交流を再開している。ひな祭り等の季節行事に来訪を受け、手作りの作品をもらったり、お礼としてプレゼントを渡したりする等のやり取りを行っている。また、地域の祭り等にも参加したり、落語や手品等のボランティアの受け入れも行っている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所のご協力で、まずは1回、運営推進会議を開くことができた。区長、副区長、市の担当者の方と話をすることができ、ホームのことをお伝えすることができた。今後も継続し、様々な意見をいただきたい。	コロナ5類移行による制限緩和の一環で、運営推進会議を開催している。今後は2ヶ月に1回の集合開催に向けて、取り組んでいる。遠方の家族が多いため、利用者家族の会議への出席要請は行っていない。	遠方の家族が多いため、出席要請の案内はひかえている。今後は、利用者の状況報告に合わせて、会議の内容や各委員の意見を記載した議事録を郵送する等し、家族の意見を聞く機会づくりに向けた取り組みに期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には日頃からご指導、ご協力をいただいている。運営推進会議の開催にも至った。包括の方が関与している利用者様についても情報交換を行っている。	行政からの情報等は、普段からメール等を活用して受け取るとともに、必要に応じて相談や問い合わせ等のやり取りをする等、連携関係ができている。利用時に地域包括支援センターが関わる場合には、利用後の状況等の情報交流を通じて連携を深めている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の施錠は行っていない。ご家族様の了承の下、やむを得ず行うこともあるが、安全面を重視するあまり、拘束に対して軽く考えてしまうことがある。もう一度勉強し、皆で正しく理解し統一する必要があると感じている。	身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成している。安全面への配慮の必要から、緊急避難的に要請される場合でも、できるかぎり代替策を検討している。また、絶えずケア実践の振り返りを会議で話し合い、身体拘束をしないケアについて職員全体で共通理解を深めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	思いやりのある関わりを心掛けているが(コロナ等の人手不足で)忙しさから少し口調が強くなっているように思う。入浴時や介助させていただいた時に身体の観察など細かく行い、少しの傷でもどうしてできたかを話し合い、全体で注意深く観察している。	利用者の権利擁護について学びを深め、虐待防止の意識を高めている。他方、コロナ禍におけるケア実践が継続している中で、職員の業務の負担感が増え、利用者への言葉がけの口調等、接する態度にも影響が出る場合もあるとの事であり、意識づけを強化している。	今後とも、アンガーマネジメントに心がけ、会議等で話し合い、虐待防止の意識をさらに高めるとともに、ストレスが虐待につながらないように、職員のメンタルケアにより注力されたい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前制度を利用されている方がみえたが、知識は不足していると感じている。なかなか自らその時間を作ることができないため勉強する機会があるとよいと思う。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に説明する機会を持ち、ご家族様に納得いただけるような丁寧な対応に努めている。改定時にも十分な説明を心掛けている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には担当職員を決めており、いつでも気軽に連絡や意見交換ができている。電話や面会時など、相談しやすい雰囲気作りに努めている。	毎月、写真付きの手紙を家族に送付し、利用者の状況を報告している。担当職員が家族に連絡を取り、体調等の報告や様々な質問に回答している。また、家族の来訪時や面会の機会を捉え、意見を聞くようにしている。コロナ感染症5類への移行に伴い、面会方法も一部緩和し、玄関先での面会が可能となっている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの時や日常的に意見や提案、相談を聞き、反映に努めている。もっと意見交流の時間を持てるとよい。	定期的に全体会議やカンファレンスを開き、意見を聞いている。会議以外の場でも、管理者は、現場に身を置き、日常的な業務の中で、相談や意見を聞いている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の個々の状況把握に努め、事情等考慮しながら就業環境の整備に努めているが、足りない部分はある。必要な事や環境整備は早急に動くよう努めている。	家庭の事情等、職員それぞれの都合に合わせて短時間勤務等を設けている。勤務変更等も可能な限り対応し、職員の勤務状況に無理がないよう、配慮しながら就業環境を整えている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会等に行けるように休みの調整を行っている。必要に応じて研修を受ける機会を提供している。ホーム内での勉強会は行われていない。	外部研修等について、職員の参加促進に資するべく勤務シフトを調整している。資格試験や研修等で本人の休みを調整する等して、資格取得を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学んでこられた事柄を作業や活動を通じて受け継いだり、共に支え合う関係が築けている。感謝の言葉を忘れないようにしている。一緒に草取りしたり、日光浴したり、利用者様のペースに合わせたケアができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で話を傾聴しご本人の意向の把握に努めている。困難な方は担当者がアセスメントし検討している。献立に利用者様の好物が個別で提供されたり、間食が日課だった方にはおやつ以外にもお茶の時間が設けられたりと、思いをくみ取り実践している。	利用時に本人や家族から思いや暮らし方の意向について聞き取りを行っている。センター方式の書式を活用し、家族に記入をしてもらう等して、情報収集に努めている。利用後に本人から得た意向等については担当者に伝え、アセスメントシートやフェイスシートに加筆して、カンファレンスでも共有できるようにしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意見をお聞きした上で、アセスメントを行い暫定的な介護計画を作成している。その後カンファレンスにて意見の交換や相談がされ、最終的な介護計画としている。	ケアプランの作成については、担当職員が案を作成し、ケアマネージャーが確認を行っている。また、変更点はカンファレンスで共有している。ケアプランはプランだけ綴ったファイルと個人ファイルにそれぞれ保管し、日々の記録の際にもすぐに確認ができるよう工夫している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートにて共有している。職員間でも口頭で情報交換がよくできている。それを実践に活かしている。	利用者の変化や気づき等は、申し送りノートや口頭で伝える等して、全職員で情報共有できるようにしている。日々の記録を毎日の支援に活かすべく、職員全体で見直し等を行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや退院時の送迎、個人的な外出、買い物など、できる範囲でご希望に沿えるよう支援している。	本人や家族のニーズに合わせ、専門医への通院支援等、柔軟に対応している。最近は、移動販売車が来なくなったため、利用者それぞれの買い物外出等の希望にもできる限り対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	落語のボランティアの方が来て下さった。今までコロナの影響でできていなかった地域との交流が少しずつ増えてきている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医に定期的に診ていただき、状態に応じて相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。歯科や鍼灸の往診も受けられる。	近くの医院をほとんどの利用者がかかりつけ医としており、2週間に1回、散歩を兼ねて、歩行や車いすを活用して、職員同行の下、通院している。また、専門医には、日頃の様子がわかるよう情報提供を行う等して連携を図っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを提供している。退院時は病院に出向き、看護師の方と面談し情報提供をいただき受け入れ態勢を整えている。	入院時には、治療がスムーズに行えるよう日頃の状態等、情報提供している。退院前には退院カンファレンスを開いてもらい、状態を把握した上で受け入れをしている。退院時にはサマリーで情報提供を受けている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご家族様との話し合いの場を設け、方針が決まれば医師とも面談を行い、書面にて同意を得ている。職員も一丸となって支援している。	契約時に、重度化した場合や終末期の在り方について、ホームでできることやできないことを説明し、同意を得ている。重度化した場合は、その都度説明するとともに、利用者・家族の意向に沿った支援に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	どうしても冷静になれないことがあるので、職員間でしっかり連携をとり、的確な判断ができるよう訓練をしていきたい。事故発生時にはヒヤリハット報告書を記入し今後の注意事項、反省、改善を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署にご協力いただき避難訓練を行っている。非常食や水、ランタン等の準備はしている。地域との協力体制を築く必要がある。	ハザードマップにおいては、当地域には水害のリスクがあるため、水害に対する避難訓練を重点的に行っている。4月と10月の年2回、訓練を行っているが、10月は夜間想定で実施している。また、停電時対策のため、非常用発電機を購入するとともに、飲料料品を2階に備蓄している。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	謙虚な気持ちがあれば自然と態度にも表れると思う。敬う気持ちを忘れないよう心掛けています。トイレのお誘いなどなるべくさりげなく行っている。	利用者一人ひとりの人格を大切にする姿勢で、ケアにあたっている。例えば、トイレ内での転倒防止の見守りの場合は、利用者の了解を得て、膝にタオルを掛ける等して、プライバシー保護に配慮している。また、トイレの声かけ等に対しても、利用者の尊厳を尊重し、さりげない対応に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中でご自身で選択、決定できるよう声掛けなど工夫している。(衣服選び、水分補給時の飲み物の選択、トイレ誘導時等)希望を表出しやすい雰囲気作りを心掛けています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはだいたい決まっているが、絶対的なものではなく、柔軟な支援に努めている。職員の都合でどうしても思いに沿えない場合もあるが、できる限る限り一人ひとりのペースを大事にして支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響や介護度の高い方が多くなったことで限られた方ではあるが、野菜の皮むきや食器の片付け等一緒に行っている。好きな物、食べたい物を聞きメニューに入れている。	食事準備の際のいんげんの筋取りや玉ねぎの皮むき等、利用者の関心や状況に合わせて、手伝いをしてもらえるよう、声かけをして手伝ってもらっている。また、食べたい物について、できる限り、利用者のリクエストに応えるようにしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量をチェックし体調管理に活かしている。利用者様の嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。水分もそれぞれの好みなど把握し支援を行っている。水分制限がある方等、個々に対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には毎食後口腔ケアを行っている。自立してみえる方にはお声がけ、見守りをしている。口腔ケアの気持ちよさを感じてもらえるよう支援している。	口腔内の汚れは、誤嚥性肺炎のリスクにつながるため、介助が必要な方については、毎食後に口腔ケアを行い、清潔を保つよう支援している。また、入れ歯をひと晩洗浄剤に付け置きしたり、スポンジブラシを活用したりする等、利用者の身体、口腔状態に合わせた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し誘導を行い、紙パンツを使用している方や介助が必要な方もできるだけトイレで排泄ができるよう支援している。無理強いにならないよう声掛けにも注意している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2～3回入浴できるように、受診や体調に合わせてお声がけをしている。時間帯は個々に合わせている。会話や歌を歌うなど楽しい時間となるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や明るさに気を付けて時期に合った寝具で、気持ちよく休んでいただけるよう支援している。休息の時間が長くならないよう気を付けている。定期的に居室の掃除や寝具の洗濯をしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見ながら理解に努めている。服薬は名前を確認し飲み終わるまで見届け、チェックシートを用いて確認を行っている。薬の変更等は送りノートを活用して理解し誤薬に気を付けている。	薬は調剤薬局から届けてもらい、ヒヤリハットを気づきのきっかけとして、落薬等がないよう、食後の服薬の際には、本人にきちんと手渡し、自分で服薬するところまで見届ける事としている。利用者の中には拒否したり、苦みを嫌がる方もあるが、急がせず、時間をあけたり、ゼリーを用いたりして服薬してもらっている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やお好きな物事(草取り、民謡、民舞など)を把握し、介護計画に取り入れ、気分転換や活躍の場を設けて支援している。お菓子などの嗜好品もその方に合わせて提供している。	利用時に今までの生活歴や希望を聞き、できる事や好きな事に取り組んでもらえるよう支援している。庭の草取りを根気に行う利用者に対し、暑さ対策をし、無理しないよう見守ったり、針仕事が好き利用者に対し、職員の見守りの下、雑巾を縫ってもらったりしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染が収束せず、以前のような外出はできていないが、体調や気分に合わせて散歩等お誘いしている。春にはお花見ドライブに行くことができた。	コロナが5類に移行となり、少しずつ外出ができるようになったので、春には近くの「岩太郎のしだれ桜」に少人数で花見に出かけたりしている。また、天気の良い日には、近所の散歩に出かけるよう積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方は金庫でお預かりし、お買い物の際にお渡ししている。現在はお金を使う機会が少なくなっている。またご自分で支払できる方も少なくなっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話を使用していただいている。現在はみえないが、手紙を送りたい方に対しての支援も行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理、換気に配慮して不快な刺激に気を付けている。季節の花や散歩で摘んできた花を一緒に活けて飾っている。壁面も季節を感じていただけるよう月ごとに変えている。	ホーム内は畳のスペースがあったり、暖簾が活用されていて、和の趣きがあり、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。壁には季節を感じてもらえるよう、ちぎり絵等の作品を掲示している。お風呂やトイレも適度な距離に配置され、職員の目が行き届くようになっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で横になって休んでいただいたり、窓辺で静かに外を見て過ごせるよう工夫している。いつでも使用できるように予備の椅子を準備している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでもらったり、家族の写真やご自分の作品を飾ったり、安心して過ごしていただけるような居室作りに努めている。混乱を招かないためにシンプルなお部屋で過ごしていただく方もみえる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングの目印に提灯、トイレまでの矢印や表示、居室の名札など、場所が分かりやすいように貼り紙がしてある。手すりも設置しており安全に歩行していただけるようにしてある。台所用品も定位置が決めてあり、利用者様自ら片付ける姿が見られる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらんの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらんの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和5年9月19日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 3 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jigvosyoCd=2172800290-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「尊厳を守ること」を念頭に置き、毎日のケアに取り組んでいます。コロナの影響で、以前のような生活はできていませんが、外に出る機会や外部の方が来て下さる機会は少しずつ増えてきています。利用者様が季節を感じたり楽しみごとが増えるように、様々なイベント(施設内)を企画し楽しんでいただいています。なるべく以前のように食事作りをお願いしたり、ちょっとした空き時間に気分転換もかねて散歩にお連れするなど、できる限りの介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や休憩室など目につく場所に理念が掲示されていて、カンファレンスでも理念を共有し意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで交流は減っているが、近所の方が野菜を届けて下さっている。近隣の保育園や託児所の子供たちとの交流はある。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所のご協力で、まずは1回、運営推進会議を開くことができた。区長、副区長、市の担当者の方と話をすることができ、ホームのことをお伝えすることができた。今後も継続し、様々な意見をいただきたい。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には日頃からご指導、ご協力をいただいている。運営推進会議の開催にも至った。包括の方が関与している利用者様についても情報交換を行っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険性がない限りは自由に生活していただく努めている。ご家族様の了承を得て、やむを得ず安全ベルト、ベッド柵を使用する場合もある。昼間は玄関の施錠をしていない。玄関にチャイムが設置してあり、出入りがあると思われるようになっている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、トイレ介助時など身体に異常がないか注意深く見るようにしている。言葉遣いや関わりの中で不信感が生まれていることがあるように感じる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方がみえたため、理解はある。自ら理解を深めたいと思う。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご家族様と面談し、丁寧な説明を心掛けている。改定の際には説明の文書を送り、ご理解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	それぞれの利用者様に担当者を決めており、担当者が窓口となり、ご家族の意見等お聞きしている。ご家族様から頂いた意見、要望等は事務局に報告・相談している。気軽に意見や要望を出せる関係作りに努めている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日常的に職員の意見や提案を受けている。もっと意見交流の機会があるとよい。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の状態や体調、学校行事などに合わせて勤務を調整している。体調面、精神面のフォローアップに努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数の減少のため、法人外の研修への参加は難しい状況にある。外部からの研修があるといいと思う。(移乗の仕方等)勉強会など。研修や勉強会を行う機会を増やし、個々のスキルアップを目指すことが必要と思われる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交流の場、機会もないため積極的に行っていくべきだと思う。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の関わりの中で一緒に作業や活動を行い、関係作りに努めている。利用者様のできる事(台所仕事、洗濯干し・たたみ)はやっていただき、感謝の気持ちを伝えている。専門的に関わる意識を持ちたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で話を傾聴し、ご本人の意向の把握に努めている。困難な場合は、日々の様子や状況を把握しながら本人本位に検討している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の希望をお聞きし、アセスメントを行っている。担当者が主になり介護計画を作成しているが、カンファレンスで意見を交換し、最終的な介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務申し送りノート、夜勤ノート、介護経過記録やカンファレンスノートなど利用して情報の共有に努めている。アセスメントの参考にした介護計画の見直しに活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、送迎などできる範囲ではあるが対応している。サービス内容になくてもその方の好きな事、できる事を観察し実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	落語のボランティアの方や訪問美容師の方に来ていただいたり、薬局の訪問指導、訪問歯科、鍼灸マッサージなどのサービスを利用している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診し適切な医療を受けられている。鍼灸マッサージ、歯科の受診、往診も受けられる。緊急時も早期受診に努めている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には介護サマリー等で情報交換を行っている。退院前には病院に出向いて詳しく状況を聞き、受け入れ体制を整えている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で必要に応じてご家族様と話し合いをしている。その後ご家族様、かかりつけ医、ホームで書面で確認し合い、ホームの体制を整えている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	何かあった場合の対応についてはまず理事長への連絡、指示を受け行動するようにしている。定期的に訓練を行い、実践力を身に付けたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署のご協力の下、避難訓練を行い、動きを確認している。地域との協力体制を整えたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを持って言葉遣いに気を付けている。声、表情などにも気を付けてにこやかにケアに当たるようにしている。一人部屋でゆったり過ごすなど個人の時間も大切にしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のお気持ちをお聞きしてご自分で決定していただくような会話に努めている(選択など)。思いや希望を表出された際には、傾聴を心掛けている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でゆっくりテレビを見たり、天気の良い日は日光浴や庭の散歩、草取りをしたりなど、できる限りご希望に沿って過ごしていただけるよう努めている。職員数が減っており、職員のペースになりがちな面もある。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付け等をできる事を楽しんで参加していただけるよう努めている。会話を大切にしている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量をチェックし、体調の変化に気を付けている。状態に合わせた食事形態で提供している。水分確保のため、10時15時入浴時などにも水分補給を促している。水分制限のある方にも対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前にケアを行っている。自立している方は昼食後もご自分で行っていただいている。利用者様の力に応じたケアを行っている。必要に応じて月2回、歯科医の口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用してその方に合った時間で声掛けをしている。トイレで排泄できるよう努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、ご本人の希望によってはいつでも入浴していただけるようにしている。歌の好きな方とは一緒に歌ったりCDをかけたりしている。ゆったりと関わり、会話もでき良い時間となっている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中一人ひとりの状況をみて臥床時間を設けているが、夜の眠りに支障が出ないよう気を付けている。空調に気を付け快適に休めるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容について把握に努めている。毎食後見守り確認を行い、服薬チェック表に名前を記入している。薬が変わった時にはその後の変化にも注意している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きな物事が継続でき楽しみのある生活を過ごせるように支援している。その方に合わせた嗜好品を提供している。毎月イベントを行い、季節を感じたり楽しんでいただけるよう努めている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、思うように外出はできていないが、近くの散歩を増やしたり、スーパーのくじ引きに個別で出かけるなど支援を行っている。今後も状況を見ながら戸外に出掛けたいと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい場合は、お金は金庫にお預かりしている。コロナの影響で現在は買い物に行く機会がなく、その方に必要な物は職員が立替で買っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様のご都合も考慮しながら、自由に電話をかけられるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとのイベントに合わせリビングに季節を感じられるような飾りをしている。空調管理に気を付け、こまめに換気を行っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのお席は気の合った方を隣にと、その時々を決めている。廊下、屋外には椅子やソファーをおいて自由に使用していただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、茶碗、コップなど持ってきていただいている。ベッドの位置はご本人に合わせて居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。写真や、イベントで作った作品などを飾り、居心地よく過ごされている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、屋外には椅子やソファーをおいて自由に使用していただいている。入口に提灯を付け、目印にしたり、浴室にのれん、トイレの張り紙、カレンダー、居室の名札など分かりやすく伝わるよう工夫している。		